

# 古典の主要年中行事

## 一月一睦月つき

**四方拝ほうほう**（元日）天皇が清凉殿せいりやうでんより東庭で四方の神々と代々の山陵を遙拝し、国家安泰を祈る。

**朝拜あそ**（元日）朝賀あそとも。大極殿だいごくでんにて群臣が天皇に年賀を申し上げる。

**小朝拜せうあそ**（元日）略式の朝拜。清凉殿せいりやうでんより東庭で親王・殿上人が天皇に年賀を申し上げる。

**元日の節会ねつゑ**（元日）小朝拜の後、豊樂院ゆんがくゐん（後に、紫宸殿むらさきみかど）にて天皇が群臣に宴を賜る。

吉方詣きちかみ（元日）吉方（恵方）にあたる神社に参詣して祈る。

**朝觀行幸あそぎゆき**（二日か吉日）天皇が上皇や皇太后の御所に行幸して拝賀する。

**二宮にのみやの大饗たいけい**（二日）群臣が中宮・東宮とうきやうの二宮に拝賀し、宴を賜る。

**臨時客りんじきやく**（二日）摂関家や大臣家で親王や公卿きやうなどを招いて宴を催す。

**白馬しろうまの節会せつゑ**（七日）天皇御覽のもと、紫宸殿むらさきみかどに南庭で左右の馬寮うまやしやの白馬を引き回し、宴を賜る。

**七種しちしゆの粥かゆ**（七日）春の七草を入れた粥を食する。室町時代以降の風習。

**女叙位によじゐ**（八日）中務省なかつむせが司り、内親王以下の女子を五位以上に叙する。

**踏歌たふた**（十四日は男踏歌、十六日は女踏歌。足を踏みならして歌舞し、宮中から諸所を巡る。

**射礼しやうらい**（十七日）親王以下五位以上の者、六衛府むつゐの官人などが、建礼門けんれいもんいで弓を射る。

月日は陰曆。  
読みは歴史のかなづかいによる。

**賭弓たご**（十八日）天皇御覽のもと、賭かけ物が出されて、近衛府このゑ・兵衛府ひやうゑの舍人とらひが弓の術を競う。

**内宴ないえん**（二十日ごろ）天皇が仁寿殿じゆうでんにて宴を賜る。女楽を奏し、詩文を作る。

**子の日の遊びこひのあそび**（上の子の日）野に出て小松を引き、若菜を摘み、宴遊して長寿を祈る。

**卯杖うさぎ**（上の卯の日）桃や梅などを束ねて五色の糸を巻いた杖を六衛府むつゐから朝廷に献上する。

**卯榎うすゑ**（上の卯の日）桃の木などで作り、五色の糸を垂らした榎を糸所いとどころから朝廷に献上する。

**皇召みかづかひの除目じよめ**（不定日）春の除目とも。地方官の国主（受領）を任命する。

**祈年祭しねんさい**（四日）神社官しんじやんや国司庁で、五穀豊穰ごこくほうじやうを祈り、諸社に奉幣ほうへいする。

**列見れつけん**（十一日）公卿きやうが太政官たいていに六位以下の昇進候補者を接見する。

**涅槃ねはん会ゑ**（十五日）釈迦しやの入寂にゅうじやく（死去）した日をしるんで法会ほふゑを行う。

**釈奠しやくけん**（上の丁ていの日の日）大学寮と諸国の官学で孔子とその弟子を祭る。八月の同日にも。

**季きの御読経ごよみ**（不定日）宮中で大般若だいはんにや経を転読させ、国家・天皇の安泰を祈る。八月にも。

## 三月一弥生やよひ

**曲水宴まがみづのえん**（三日）水流に浮かべた盃が流れてくまで、に詩歌を詠じて酒を飲む宴。上巳じやうしの祓はらへ（上の巳しの日）人形にんぎやうに汚れを移して水に流し、厄災を取り除く。雛祭ひなまつりのもと。

**石清水いしのみづの臨時りんじの祭まつり**（中の午うまの日）石清水八幡宮いしのみづやわたるの例祭。南祭とも。

**花鎮はな塚づかの祭まつり**（不定日）花の飛び散るのを鎮め、疫病を防ぐ祭。鎮花祭。近世は十八日。

**四月一卯月うさぎ**

**衣更ころもへ**（一日）衣装や調度品などを夏の装いに改める。

**孟夏もうげ句く**（一日）夏の初めに天皇が群臣を召して宴を賜る。二孟句にもうげのの一つ。↓十月孟冬句もうとう

**擬階奏ぎかひそう**（七日）二月の列見で選考した者の位階を改めて奏上する。

**灌仏くわんぶつ会ゑ**（八日）釈迦しやの誕生を祝い、釈迦像に香水かうすいを注ぎ、法会ほふゑを行う。

**齋院御禊さいゐんぎしやう**（中の午うまの日）賀茂かものの祭まつりに先立ち、齋院が賀茂川で禊ぎしやうぎをする。

**賀茂かものの祭まつり**（中の酉とりの日）京都上賀茂・下賀茂神社の祭礼。齋院一行が行列を整えて参拝する。

**五月一草月くさづき**

**菖蒲あやむす献上けんじやう**（三日）五日の節会せつゑで用いる菖蒲などを盛った輿こしを六衛府むつゐの官人が献上する。

**端午節会たんごせつゑ**（五日）菖蒲などを軒に飾り、邪氣を祓はらう。宮中では騎射きしやみや宴がある。

賀茂の競べ馬(五日) 上賀茂神社で神事として馬を競わせる。

## 六月―水無月づみな

祇園会ぎんぐわい(七日) 京都八坂の神社の、悪霊を鎮めて崇りをふせぐ祭礼。七日間。

大祓詔おほひらきのみことぎ(三十日) 群臣が朱雀門すざくかどに集まり、中臣なかとみ氏の祝詞のりとにより、半年間の罪や汚れを祓らう。十二月にも。

水無月づみな祓はらひ(三十日) 夏越なつこしの祓はらへとも。民間で行う大祓詔おほひらきのみことぎへ。茅の輪ちのわをくぐつたりする。

## 七月―文月ふみ

乞巧奠きせうけん(七日) 七夕とも。牽牛せんぎゅう・織女おりむすめの伝説に拠り、手芸や和歌の上達を祈る。

盂蘭盆会うらんぼん(十五日) 供え物をして祖先の霊を供養する。宮中では、天皇が清涼殿せいりやうでんで礼拝。

相撲まがまがの節ふし(不定日) 諸国の力士に、天皇御覧のもと、内取うちとり(稽古・召合めいあひせ)勝負をさせる。

## 八月―葉月はづき

定考じやうかう(十一日) 上皇を憚おそはかり字を逆に読む。四月の擬階奏ぎたいそういでて選出した者の昇進を決める。

石清水放生会いしづきはなはな(十五日) 石清水八幡宮いしづきやちまの例祭。殺生ころしを禁じる考え方から生き物を放す。

月の宴つきのみ(十五日) 中秋の名月をめぐる。宮中では清涼殿せいりやうでんで宴を催す。

駒牽こまひき(十五日) 天皇が紫宸殿むらさきみかどで、諸国から献上された馬を御覧になる。

積奠せきけん・しんしん ↓二月上の丁つひの日の  
司召つかさどとも。京官を任命する。

除目じよめとも。京官を任命する。

季きの御読経ごよみ ↓二月 不定日

## 九月―長月なが

重陽宴ちゆうやうのえ(九日) 菊の宴とも。菊酒を飲み、菊の露で身をぬぐって災いを祓らう。長寿を祈る。

伊勢例幣いせのれいへい(十一日) 朝廷から神嘗祭かみかひに幣物へいぶつを奉納する使いを送る。

後の月見ごのつきみ(十三日) 陰曆八月十五日の月見  
神嘗祭かみかひ(十六日) 天皇がその年の新穀で造つた神酒と神饌かみかひとを伊勢いせ神宮に奉納する。

## 十月―神無月かんな

孟冬句もうとうのく(一日) 冬の初めに天皇が群臣を召して宴を賜る。二孟句にもうとうのくの一つ。↓四月  
孟夏句もうげのく

衣替いかへ(一日) 衣装や調度品などを冬の装いに改める。

弓場始ゆまはじめ(五日) 射場始ゆまはじめとも。天皇が弓場

残菊宴ざんぎくのみ(五日) 咲き残った菊をめぐる。宮中みやちゆうで重陽宴ちゆうやうのえがない場合は、その代わりとなる。

維摩会いま(十日) 興福寺で藤原鎌足ふじのあその忌日きびの十六日まで維摩經いまきやうを講じる法会を行う。

亥子餅かいしもち(上の亥かいの日)。万病を除き、子孫繁栄を願って亥子餅かいしもちを食す。

## 十一月―霜月しも

相嘗祭あひかひ(上の卯うの日) 新嘗祭あひかひに

先立ち、新穀を神々に供え、その相伴をする。

五節ごせつ(中の丑うしの日・辰たつの日) 豊ゆたかの明あきかりの節会せつかいにおける、舞姫の舞に至る四日間の行事の総称。

帳台試ちやうだいし(中の丑うしの日) 五節ごせつの一日目の儀式。天皇が常寧殿じやうねいどのの帳台の前で舞姫の試演を御覧になる。

御前試ごぜんし(中の寅とらの日) 五節ごせつの二日目の儀式。天皇が清涼殿せいりやうでんで舞姫の試演を御覧になる。

童女御覧どうにょみらん(中の卯うの日) 五節ごせつの三日目の儀式。天皇が清涼殿せいりやうでんで舞姫の世話をする童女を御覧になる。

新嘗祭あひかひ(中の卯うの日) 天皇が新穀を神々に供えてその相伴をし、収穫を感謝する。

豊ゆたかの明あきかりの節会せつかい(中の辰たつの日) 新嘗祭あひかひの翌日に天皇が群臣に新穀を賜り宴をし、五節ごせつの舞がある。

賀茂かまの臨時りんじの祭まつり(下の酉うの日) 賀茂神社の例祭。四月の例祭に対していう。

## 十二月―師走しすし

御仏名ごぶつな(十九・二十一日) 清涼殿せいりやうでんで罪業消滅のため、諸仏の名を唱えて読経する。

大祓詔おほひらきのみことぎへ ↓六月三十日  
荷前かきまへ(年末吉日) 諸国から貢がれた初穂を山陵などに奉る。

内侍所御神楽うちしやくごみかぐら(不定日) 質所しやくじよ御神楽ごみかぐらかきとも。宮中内侍所で庭燎ていりやうは焚いて行う神楽。

追儼おひかみ(晦かみ日) 鬼遣おにやりらひととも。一年間の邪気である鬼を、桃の弓と葦あしの矢で追い払う。